

おもかげ WebCome!

『魅力ある住みよい明るいまち面影』を目指して 《第5号》

今回の**2**枚: 今年の竹灯籠づくりの成果です。



アップ日 令和8年1月30日 発行: 面影地区まちづくり運営協議会総務部

12・1月実施のまちづくり事業

*ワインのアレコレを学ぶ会 11月29日(土) 生涯学習部事業

事業のほとんどは昼間に開催されており、普段お仕事をされている方はなかなか参加するのが難しく、生涯学習部ではそんな方でも参加できるよう、夜間の事業を計画したところ、18名の方が参加してくれました。

内容は、兎ッ兎ワイナリーの方に来ていただきワインをつくる過程や種類、ブドウの産地などについて話をいただき、ワインの試飲も行いました。



*たのしいクリスマス会&おはなしの会 12月21日(日) 生涯学習部事業

小学校で学級閉鎖になるなどインフルエンザが流行している時期でしたが、33名の子どもたちが参加してくれてクリスマス会を楽しみました。

内容は、クリスマスの工作やホットケーキづくりを行い、最後はおはなしの会の方に絵本を読んでいただきました。



*ミニ門松づくり 12月23日(火) 環境美化部事業

面影山に生えている竹をつかって、毎年恒例のミニ門松づくりを開催したところ、29名の方にご参加いただきました。今回は参加者が多く、材料をそろえるのに苦労しましたが、個性ある門松ができ参加者も満足されていました。ただ、これまでは地域内であった黒松が今回はみつからず、購入しました。どなたかご提供いただける方がありましたら、次年度以降ご協力ください。

また午後からは、正蓮寺有志の方々が公民館の玄関に立派な門松をつくってくださり、良い年を迎えられそうです。



*年末大掃除 12月25日(木) 環境美化部事業

面影地区公民館の大掃除を午前と夜に分けて行いました。午前は、教養講座の方を中心に54名の方が参加していただき、各部屋や外回りの掃除を普段しないところまでキレイにしてくれました。

夜は体育館の利用者25名が体育館のワックスがけを主にしてくださいました。



*面影地区新年互礼会 1月10日(土) 面影地区自治会・区長会

新年を寿ぐ、互礼会を面影地区公民館で開催しました。自治会、新しい区長、各種団体長等45名の方が集まり、新年を祝いました。今年は、60年に一度の『丙午(ひのえうま)』の年です。十干の「丙」と十二支の「午」が組み合わさった年で、どちらも火の性質を持つことから、丙午は火の力を象徴する年とされます。古来、この年は「あまりに力が強すぎる」と恐れられてきましたが、今年はこのパワーを活用して地域を盛り上げていきましょう!!



*昔あそび大会&おもちを食べよう 1月17日(土) 生涯学習部事業

昔の遊びを地域のおじいちゃん・おばあちゃんから教えてもらい交流を深める会として、今年も開催したところ、22名の子どもと30名をこえる大人が集まりました。(大人の方が多かったですね~笑)

内容は、竹とんぼ・羽根つき・お手玉・けん玉・こままわし・だるま落としなどの昔遊びをしたあと、グループにわかれて面影ジャンボかるたを行いました。そして、最後にぜんざいをみんなで食べてお腹を満たしました。



*がま口ポーチづくり 1月21日(水) 生涯学習部事業

大人むけのものづくり事業として、がま口ポーチづくりを実施したところ、5名の方が参加してくださいました。最初に好みの布を選び、手縫いですすめていき最後に口金のパーツをつけて完成です。それぞれ個性あふれるがま口ができましたので、皆さん大事につかってください。



*健康マージャン大会 1月23日(金) 健康福祉部事業 延期

予定していた健康マージャン大会ですが、大雪が予想されることから、2月26日(木)に延期させていただきます。

*しいたけの植菌作業 1月24日(土) 環境美化部事業 延期

12月に面影山山頂付近の木を一部伐採しました。その木の枝を活用し、急ですが24日の子ども食堂に来た子どもたちに協力してもらい、原木にしいたけの植菌をする計画をたてました。しかし、雪のため子ども食堂が中止となったため、2月7日(土)に計画している子どもおかしづくりの参加者に手伝ってもらおうこととします。



面影山から綺麗な景色が望めるようになりました。ぜひ登ってみてください!!

面影山山頂からの絶景が誘う古代のロマン

面影郷土史研究会 大西 孝雄

◆ワクワク楽しい面影山に

前回「面影探訪③」で面影山の登山道が楽しくなったことをお知らせしました。ワクワクする面影山づくりの第一歩です。具体的には登山道に沿って見られる植物について、その名板約30種を設置し、今後もさらに設置する予定にしています。また、同時に登山道の所々に頂上までの距離を知らせる案内板も設置しました。体力的にきつくなっても、あと少しと思えば登る元気が湧いてきます。

◆頂上からの景観が抜群によくなりました

ところで、これまで手が付けられていなかったものに「頂上からの景観改善」がありました。しかしこれも、令和7年12月に東部森林組合に依頼し、東側を中心に部分伐採をしてもらいました。するとどうでしょう。見渡す限りの広々とした田畑、因幡三山の甑山・今木山、因幡国庁跡などが、そしてはるか彼方に扇ノ山の美しい姿がパノラマを見るように眺望できるようになりました。

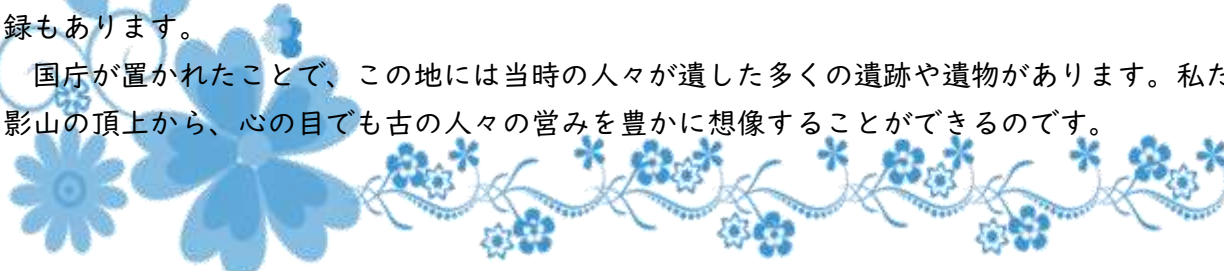
◆古代因幡の政治・文化の中心地、国府平野

大和政権は60余の国に国庁を置きました。因幡の国庁は面影山から見下ろす国府平野に置かれ、国守（長官）・次官・3等官・4等官の国司が置かれました。国司たちは蒲生峠越えの山陰道を通り、十王峠で現岩美町から現国府町に入り雨滝往来を下って因幡国庁に入ったと思われます。都からやってきた役人は、国庁にいて西方の山を眺めては奈良の都の天香具山を思い起こし、都に残してきた妻や子の「おもかげ」を偲んだことでしょう。これが面影山の名前の由来（他の説もあり）です。

◆面影山からの景観は古代の営みへの想像力をかき立てます

中国山地から流れ出る川は土砂を運び扇状地を形作りました。その先端が面影山辺りになります。この地が古代の政治や文化の中心地となったのは、千代川の氾濫の影響をあまり受けない袋川（当時の川の名前や流路は現在とは異なりますが分かり易くこの名前で統一）の中流域で安定した穀倉地帯だったからと思われます。因幡の国の「イナバ」とは、稲葉山の「稲葉」。正に稲作地帯が連想されます。また、古代から中世、近世辺りまでは、人や物資を運ぶには舟が大きな役目を担っていました。国府へも千代川の河口から舟が上ってきていました。これは宇倍神社の近くに「舟頭塚」があることからわかります。また国守の五社参拝の折には、袋川を下り秋里、江津、賀露まで行ったという記録もあります。

国庁が置かれたことで、この地には当時の人々が遺した多くの遺跡や遺物があります。私たちは面影山の頂上から、心の目でも古の人々の営みを豊かに想像することができるのです。



シリーズ みんなで減災④ 地震に備えて

1月6日10時18分頃、島根県東部を震源とする地震がありました。震源の深さは10km、地震の規模はM6.4、最大震度5強を鳥取県、島根県で観測しました。この地震は、島根県東部にある活断層「布部断層」の一部が活動して起こったとみられています。

このような機会ですので、地震への備えについて学びましょう。

《身の安全の備え》

①家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう

- ・けがの防止や避難に支障のないように家具を配置しておく。
- ・家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておく。

②家具類の転倒・落下・移動防止方法

＜転倒・落下・移動防止のポイント＞

- ・転倒防止金具などで固定し、倒れにくくしておく。
- ・サイドボード、食器戸棚、窓などのガラスが飛散しないようにしておく。
- ・本棚や茶ダンスなどは、重い物を下の方に収納し、重心を低くする。
- ・棚やダンスなどの高いところに危険な物を載せて置かない。
- ・食器棚などに収納されているガラス製品（ビン類など）が転倒したり、すべり出さないようにしておく。

＜具体的な固定方法＞

- ・二段重ねの家具類は、上下を平型金具などで固定する。
- ・柱、壁体に固定する場合は、L型金具とモクネジで家具の上部を固定する。
- ・ガラスには、ガラス飛散防止フィルムを張る。
- ・吊り戸棚などの開き扉は、掛金などにより扉が開かないようにする。
- ・食器棚のガラス製品（ビン類など）が、転倒したりすべり出さないよう防止枠を設ける。

③けがの防止対策をしておこう

- ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
- ・停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
- ・散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておく。

④家屋や塀の強度を確認しておこう

- ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
- ・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないよう補強しておく。

《初期対応の備え》

①消火の備えをしておこう

火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き（溺れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする）をしておく。

②火災発生の早期発見と防止対策をしておこう

- ・火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておく。
- ・普段使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておく。
- ・電気に起因する火災の発生を抑制するため、感震ブレーカー（分電盤型）などの防災機器を設置しておく。

③非常用品を備えておこう

- ・非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
- ・冬の寒さなど、季節を考慮した用品を備えておく。
- ・車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用を考えておく。
- ・スマートフォンの予備バッテリー（PSE マーク付）など、必要な電源を確保しておく。

<非常用品として備えておくもの>

=非常持出品=

両手が使えるリュックサックなどに、避難の時必要なものをまとめて、目のつきやすい所に置いておく。

飲料水・携帯ラジオ・衣類・履物・食料品・マッチやライター・貴重品・懐中電灯・救急セット・筆記用具・雨具（防寒）・チリ紙など生活に欠かせない用品です。

=非常備蓄品=

地震後の生活を支えるもの、一人3日分程度（食料品等）

- ・停電に備えて：懐中電灯・ローソク（倒れにくいもの）
- ・ガス停止に備えて：簡易ガスこんろ・固形燃料
- ・断水に備えて：飲料水（ポリ容器などに）1人1日3L目安

《確かな行動の備え》

①家族で話し合っておこう

- ・地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
- ・外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所を決めておく。
- ・家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
- ・台風等の風水害が同時期に発生した場合を想定しておく。
- ・普段のつき合いを大切にするなど、隣り近所との協力体制を話し合っておく。

②地域の危険性を把握しておこう

- ・自治体の防災マップ等で、自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
- ・自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作っておく。

③防災知識を身につけておこう

- ・新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておく。
- ・消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。
- ・大きな地震の後に同程度の地震が発生する可能性があることを理解しておく。

④防災行動力を高めておこう

日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身につけておく。

★おわりに

※第6号は、3月30日（月）にアップ予定です。